



一巻頭言

法人改革への取り組みを確かなものに

会長 永井多恵子

託事業として受けるかたちで行つてきまし

たが、この事業は平成22年度まで廃止となり、平成23年度からは、支援プログラムの名称が「次代の文化を創造する新進芸術家育成事業」へと変わります。これは、「伝統芸能ワークショップ」も同様です。

したがつて、今後は、「次代の文化を創造する新進芸術家」の育成に資すると認められる事業でないと、事業そのものが廃止になる可能性もあります。一方で、新公益法人やNPOに対する寄付税制も変わることで、より一層のご理解とお力添えをいた

る予定です。

これに対応して、すべての公益団体は、ミッショニン（社会的使命）を明確にするとともに、アカウンタビリティ（説明責任）を向上させることが求められます。

この2年間、それでも、協会の事業活動を厳選して業務を委託する方式のプログラムが新たに導入されたことは特筆すべき大きな変化です。

これまで当協会は、文化庁の「芸術団体人材育成支援事業」（国際演劇年鑑の編集・発行）を、この三年間に限り、例外的に委

成のしくみについても、これまでとは大きく考え方の異なる支援プログラムが導入されることは先頃発表されました。赤字補填を前提とする補助金ではなく、必要な事業を厳選して業務を委託する方式のプログラムが新たに導入されたことは特筆すべき大きな変化です。

らの評価も事業に対してもA評価を戴いています。また、民間からの助成金を獲得し、財務資源の多様化をはかりました。これからは、国（政府）からの補助金に依存している訳にはいかない状況であることは、強く認識しておく必要があります。

平成二十二年度 定例総会報告

平成二十二年度国際演劇協会定例総会は、昨年六月二十八日（月）に招集され七月二十四日（土）午前十時～十二時、松竹株式会社大会議室（築地東劇ビル十階）にて開催されました。

出席者は一七八名で正会員三三二人中一七八人（委任状提出者一五五人を含む）の出席があり、定足数の一六二人を上回つたので、総会は有効に成立しました。な

採決により、172票（出席170
委任状155）の賛成多数で提案通り
可決されました。

総会は、菱沼彬晁理事及び松田和彦

理事を議事録の署名人に選び、午後
十二時十二分、散会となりました。

選出された次期役員（平成二十一年度・二十三年度）は次のとおりです。

会長 永井多恵子
副会長 斎明寺以玖子

専務理事 安孫子正
専務理事 波多野敬雄

常務理事 中根公夫
常務理事 吉井澄雄

理事 伊藤洋、大笛吉雄

小田切ようこ、坂手洋二

真藤美一、曾田修司

田原昭之、永江巖

林英樹、菱沼彬晁

松田和彦、吉岩正晴
和崎信哉

監事 伊藤巴子、小林弘文

当日の配布資料をご希望の方は事務
局までご一報下さい。

事業報告 2題

1・ワークショップ「雅楽」

このところ、すっかり恒例となつた感の夏の伝統芸能ワークショップ。国際演劇協会は気がついてみればこれを実に二十二年も続けているという、大した事業である。今年は「雅楽」に取り組んだ。文化庁伝統文化課の人材育成支援事業として助成を受け、八月三日から十日までの八日間をオーブンしたばかりの水天宮ピットで稽古、残り二日間の総稽能舞台という素晴らしい環境で進めることができたのは幸運であった。

指導をお願いした小野雅樂会雅樂師の先生方のもとで十二分に勉強出来た今年の受講生たちも幸せと言わねばなるまい。

沿革を少々。このワークショップは、文化に関する輸入過多気味であつた四半世紀前、日本の伝統文化のエスプリを「輸出」したいものだ

との故内村直也氏（当時の会長）の思いにより、まず外国人に日本文化を「理解してもらおう」ということから開催に至つたのがその始まりであると聞く。このように初めは外国人を対象に実施され、歌舞伎、能、狂言、日本舞踊の順に年ごとにテーマ別に催され、十五人から二十人の受講生が海外から参加していた。当初から文化庁の助成対象事業に選ばれていて、指導にあたつたのは中村又五郎、観世榮夫、野村万之丞、花柳照奈の諸師。皆さん故人となられ

さて、演劇関連の協会が「演劇」とはあまり繋がりのない、むしろ全十二名。)

さて、演劇関連の協会が「演劇」とはあまり繋がりのない、むしろ



たがこの方々は当時国際演劇協会の会員で、協会の事業のためにと講師をお引き受け下さりご尽力下さったのだった。高い評価は当然のこととは言え、英字新聞に批評や紹介が掲載されても対象が外国人に限られていたために日本国内では殆ど知られることがなかつた。この四テーマを主軸として「番外編」に民俗芸能が加わつたこともあつた。現在は国際ワークショップとして国籍性別年齢を問わずに参加者を募つてゐるが、毎年大抵外国人受講生は全体の三分の一くらいの割合である。（今年は全十二名。）

「音楽」に傾いたこのテーマを敢え

てワークショップに選んだのは何故か。ユネスコの伝承無形文化遺産の傑作宣言を受けた日本の代表的伝統芸能、能楽・人形浄瑠璃文楽・歌舞伎等よりも随分以前から存在する雅樂は、もともと民間に盛んであつた歌入り唄等に対しても正式な楽曲という意味合で大陸と半島から渡来した歌舞音曲を称した言葉だつたらしいのだが、ユネスコが傑作と認定したこれらの伝統芸能に先立つて存在発展していた芸能をも知る必要があるのではないか、このワークショップは個々の技術を研鑽する以外に日本文化の感性のルーツを知る目的もある、という多くの意見に推されての雅樂ワークショップ開催となつた。

実際の練習の曲目は管弦（合奏）に平調音取（ひょうじょうのねどり）、

笙の練習

五常樂急（ごじょうらくのきゅう）・越殿樂（えてんらく）、舞樂には登殿樂（とうてんらく）が選ばれて、笙・簫篥・龍笛と舞を集中的に稽古、能樂堂の研修能舞台に会場を移してからは装束も着けて練習した。各楽器のメロディーラインを暗唱して唱えることを唱歌（しようが）と/or/いうが、独特の音符の読み方の繋がりは旋律をつけた外国语の詩の朗詠のようで興味深かつた。唱歌が基本であるため、この「朗詠」をマスターしなければ楽器の演奏は無理ということなのである。期せずして、演劇ワークショップの発声練習のようでもあつた。

雅樂が広まる歴史は仏教のそれと前後しているそうである。広めるために専門家を育成しそれを楽家（がつけ）といい、楽家ごとに教え伝える舞や樂器が決まっていたといふ。このファミリーはこの曲目だけを演じることが職業、という具合だつたそうだ。現在私たちが接する様々な日本の伝統芸能の伝承の方法・慣習は雅樂の頃から変わっていない、つまりこれが日本の文化のも



発表会一舞・登殿樂

2・「演劇と環境」

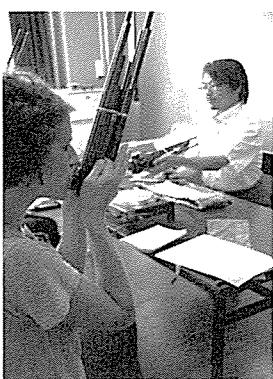
公演とシンポジウム 杭州・上海で開催

杭州・上海で開催

2010年6月5日から7日ま

で、国際演劇協会日本センター、浙江大学メディア・国際文化学院、上海戲劇学院ほかが共催、話劇人社が協力する日中共同の演劇公演とシンポジウムが杭州と上海で行われた。テーマは「環境と演劇」、いまや地獄規模の問題となつた環境保護を演劇の分野でも正面から受け止め、日本と中国の演劇人が共通の課題として取り組んでいこうという催しである。

発端は2009年十一月に早稲田大学大隈講堂で開かれたドラマリーディングとシンポジウム「感劇・環境」にあつた。やはり国際演劇協会日本センターの主催で、井上ひさし作『水の手紙』、過士行（中国）作『魚人』、アーニャ・ヒリング（ドイツ）作『黒い獣 悲しみ』が披露された。そのときシンポジウムのゲストとして来日したのが、浙江大学の故志毅教授だつた。『魚人』という作品の



笙の練習

解説に止まらず、彼自身が暮らす杭州における環境改善・観光名所として知られる西湖の水が生き返った話をしてくれた。

今回のイベントはその故教授の全面的な協力によって実現したと言つていい。公演は浙江大学および上海戲劇学院の校内にある劇場で行われた。井上ひさしの『水の手紙』は、4月に亡くなつた氏の追悼公演となつた。人間の生存に欠かすことのできない水をめぐる世界的な問題を群読劇のスタイルで語りかける作品である。09年は早稲田大学の学生が出演したのに対して、今回は浙江大学の学生たちが初々しく演じた。人間と魚、そして水との共生を説く『魚人』も昨年と同じ演目だったが、リーディングではなく部分上演の形を取つた。上海戲劇学院の制作。主役の二人はプロの俳優だから、さすがに迫力があつた。

もう一作は『中国の夢』の部分上演。作品の内容は、アメリカに住む祖父に対する愛憎半ばする心情に引き裂かれ、アイデンティティを求

めて苦悩するというものである。異国の地にあるヒロインが故郷の山河に思いをはせ、ダム建設や工業化によって美しい自然が失われつつあると聞いて心を痛める場面などが演じられた。作者は現在、上海戲劇学院副院長の職にある孫恵柱、出演は浙江大学の学生劇団「黑白劇社」だから、上海と杭州の合作ということになる。1980年代の旧作を学生たちが見事に蘇らせた。指導に当たつた桂迎教授の力量だろう。

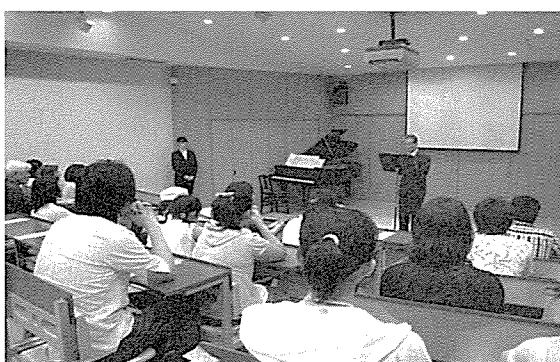
シンポジウムでは日本側から国際演劇協会日本センターの永井多恵子会長、早稲田大学演劇博物館の竹本幹夫館長、中央大学の飯塚容教授の3名、中国側から中国芸術研究院の田本相教授、上海戲劇学院の宮宝榮教授と湯逸佩教授、浙江省博物館学会の陳文錦会長、浙江大学の故志毅教授、浙江工商大学人文学院の王音潔副教授の5名がパネラーとして報告を行つた。中国側の長老格である田本相教授は「環境と演劇」というテーマに重大な今日的意義を認め、理論研究と上演活動を今後大いに盛り上げていきたい、さしあたつて来

る。副院長の職にある孫恵柱、出演は浙江大学の学生劇団「黑白劇社」だから、上海と杭州の合作ということになる。1980年代の旧作を学生たちが見事に蘇らせた。指導に当たつた桂迎教授の力量だろう。

なお、二〇〇九年十一月に早稲田大学大隈講堂でのリーディングに始まつた「地球環境と演劇」の一連の催しは、年度を超えて二〇一〇年杭州・上海へと渡り、東京に戻つて再度桐朋学園芸術短期大学の学生さんたちによる『水の手紙』リーディング上演で最後を飾りました（6月26日）。桐朋学園では、永井会長・菱沼理事を交えた杭州・上海の全体報告の後、演劇専攻の新入生25名が宮崎真子准教授の指導・演出のもとで厳しい稽古を経た成果を、会場客に披露しました。リーディングは戯曲の骨子を理解する最良の上演形式と言われますが、それ以上に、感銘を与える上演でした。

報告・中央大学教授
飯塚 容

（NPO法人 話劇人社 機関誌「幕」第71号（2010.12.31刊）より転載）



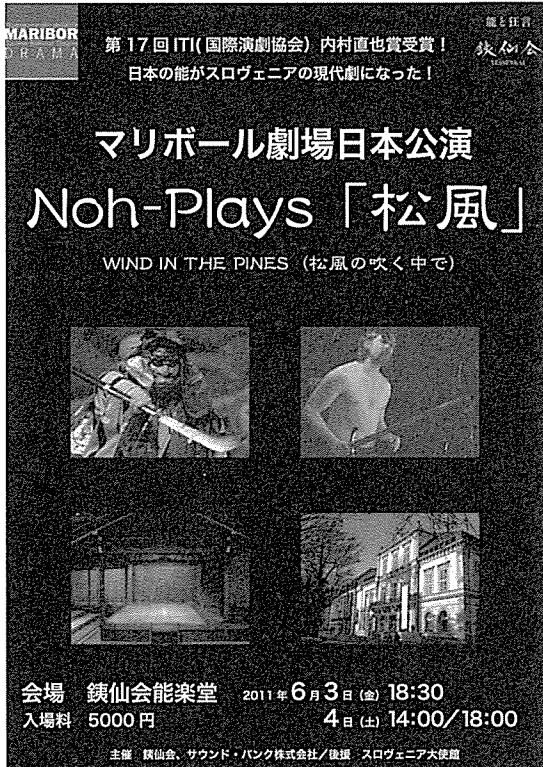
上演を前に講演する菱沼理事



リーディング上演風景

内村直也賞決まる

第十七回内村直也賞の受賞作はスロヴェニアの作品「松風」に決まりました。この作品はスロヴェニアの国立マリボール・ドラマ劇場制作による「能」四演目をオムニバス風にまとめたもので、この劇場の芸術監督ラヴィニヤック氏が『鉢の木』『邯鄲』『熊坂』『閻寺小町』を選んで翻訳し「松風」を共通テーマとして繋いだ（これら四演目にはすべて「風」がからむ）。ここで松風は能の演目の「松風」ではなく、これら四演目を通して流れる人の世あるいは人生の無常観の象徴ということだろうか。あるいは氏が能の中に見た人生観か。芸術監督自らが演出を手掛け、国立劇場所属の俳優たちが演じている。翻訳はバルバラ・ロワン。作曲、演奏も素晴らしい。



二〇〇九年度の選考は一〇年４月の理事国會議で検討されたが決定には至らず、その後アメリカ・フィンランド・日本の国際理事によるワーキンググループが検討を重ねて当作

品を推し、理事国會議の全理事により承認された。授賞式は今月国立マリボール劇場で文化大臣、在スロヴェニア日本大使臨席のもとに執り行われ受賞作の一部が披露される予定と聞いている。（二〇一〇年度の選考を含む理事国會議はまだ開かれていらない。）

マリボールは首都リュブリアナの北東約百キロメートル、オーストリアとの国境付近の街でウイーンの奥座敷と言われ豊かで古典的な地域にある。その劇場でヨーロッパの視点がとられた能は現代劇としてその真

されているが、今迄残念ながら受賞作を招聘して日本で紹介することは叶わなかつた。この度鍊仙会のご尽力により受賞作を紹介出来ることは嬉しい限りである。（記・小田切）

都市／廈門（アモイ、Xiamen）

会開催の目処がたたず、情報も二転三転したが、このほど漸く決定した。

開催ホスト国／中国

世界大会はアモイで

髓が演出され高い評価を得た受賞に相応しい作品である。

受賞作は、本年6月3日と4日に

東京青山の鍊仙会にて上演される。

内村賞は日本が外国を対象に出している数少ない賞であるため、日本の国内では殆ど知られていない。日本センターや内村家から賞の運営を任

されているが、今迄残念ながら受賞作を招聘して日本で紹介することは叶わなかつた。この度鍊仙会のご尽力により受賞作を紹介出来ることは嬉しい限りである。（記・小田切）

世界的な経済危機の影響で世界大

I T I の憲章では世界大会は「二年に一度」。通常は大会最終日の全体

会議で、開催を表明している候補国

の中から大会出席国の投票で選び二年後の開催国が決まる。しかし前回のマドリード大会で、中国・上海で、と決まったものの昨年の開催時期直前に、中国センターから「上海万博と重なるので不可能！」との理由で

キャンセル、世界中が困惑した。ユネスコ本部より、会場を提供するから憲章を遵守するように、との助け船があつたが、各国センターの金銭的負担が大きすぎることでこれも成らず。前回から三年目、憲章通りではないが、今度は「確定」のようだ。大会テーマは未発表である。

お知らせ――

日韓演劇交流センター

【出演】キム・ジョンオク
杉本了三

韓国人劇作家による優れた戯曲をリーディングで紹介する企画。日本では、一〇〇五年から二年に一度シアタートラムで上演してきた。5回目を迎える今回も珠玉の韓国戯曲を厳選して発表する。

A ..『道の上の家族』
作／チャン・ソンヒ
翻訳／石川樹里

B ..『爾一王の男』
演出／智春
翻訳／木村典子
演出／青井陽治

C ..『月の家』
作／ノ・ギヨンシク
翻訳／宋美幸
演出／矢内文章

※シンポジウム500円（ドラマリーディング半券提示で無料）

※2月二十六日（土）午後5時半からシンポジウム『日韓演劇交流の歴史』を開催する。

韓国現代戯曲集を出版している。

一九九九年以前に韓国演劇協会と日本演出者協会の共催で行われていた『日韓演劇人会議』によって設立が提案され、二〇〇〇年4月、（社）日本劇團協議会、（社）国際演劇協会日本センター、日本演出者協会、日本劇作家協会、日本新劇俳優協会、国際演劇評論家協会、日本新劇経営製作者協会の、国内演劇関係団体7団体を中心に発足した。委員会は各団体から2名、合計十四名で構成され、I T I からは林・小田切両名が参加している。初代理事長は石澤秀二氏、現理事長は大笹吉雄氏である。

日韓演劇交流センターは、その名のとおり、日本と韓国の演劇交流促進のための活動を行うことを目的とし、年4回のニュースレターの発行（編集長・西堂行人）、韓国の優秀な戯曲を紹介するドラマリーディングの開催をソウルの韓日演劇交流協議会と連携し、隔年で行う。また、ドラマリードイングの開催に合わせて

報告――

ユネスコ第2回芸術教育世界大会

二〇一〇年5月二十二～二十五日、ソウル（大韓民国）にて、ユネスコ第2回芸術教育世界大会が開催された。ユネスコ主催、韓国文化省協力によって開催された本大会には95カ国から650名以上の芸術教育に携わる当局関係者および専門家が集つた。プログラムは閣僚円卓会議、基調講演、パネルディスカッション、ワークショップ、地方団体討論会、NGOおよび財団法人のエンカウンター、芸術教育および文化親善特別会議などであつた。

I T I は9名の代表者が出席し、本大会中最も出席者の多い組織となつた。ジャン＝ポール・ガンガネ氏（ブルキナ・ファソ）は、本大会の諮問委員会の専門家であり、また、I T I アフリカ地域評議会会長、I T I 執行委員会委員であるが、『芸術教育における社会・文化的要素』という題で綿密かつ刺激的な基調講演を行つた。

ジャニ・アンリ・ドレーズ氏（ベルギー）も諮問委員会の専門家であり、また、I T I ベルギーセンター副会長、I T I 演劇研修・教育委員会（TECOM）副会長、I T I/UNESCO理事を務めるが、『教員（一般および芸術関連）のための教育および研修システム』と題した円卓会議の議長を務め、その実際的知識によつて会議に大いに貢献した。ディーター・ヴエルケ氏（ドイツ）は、文化の多様性に関するI T I スポークスマントイおよび開発委員会（CIBC）の理事を務める。ゼカリヤ・ロビン・ラジルは、作家、演出家、ラテン・アメリカ演劇学校ネットワーク創設者である。この2名は『紛争地域ににおける平和の確立』というワークショップの主導に当たつた。セシル・ギドーテ・アルヴァレス氏はI T I フィリピンセンター会長で、I T I 執行委員会会員であるが、閣僚

会議に出席し、芸術教育週間の毎年開催復活を提唱した。アルヴァレス氏は、ユネスコ総会の同提案承認を目指に今後さらに活動を続ける予定である。

I T I 事務局長トビアス・ビアンコーネ氏は、NGOおよび財団法人のエンカウンターにおいて、I T I の教育プロジェクト紹介を行つた。氏はI T I 演劇研修ライブラリ・プロジェクト、I T I 世界舞台芸術アカデミー、CIDC およびTECOM 主催によるプロジェクト数種、ITV/UNESCO の活動範囲、「異文化演劇大学」創設プロジェクトについて紹介した。これらI T I 主催プロジェクトは共通した一つの目的を持つてゐる。すなわち、あらゆる側面において世界中で舞台芸術の質を高めることである。

I T I 韓国センター会長でありI T I 執行委員会委員であるイル・スー・シン氏は、本大会の特別来賓で、今や韓国の重要人物となつたかつての教え子の多くとコネクション

を持つてゐる。I T I 名誉会長であるキム・ジョン・オク氏も本大会の特別来賓で、代表委員たちをソウル郊外の、氏の創設になる顔貌博物館というユニークな博物館に招待した。メキシコセンター理事であり、劇作家・演出家アルテア・ナホリー氏（メキシコ）と、TECOM副会長でありITV/UNESCO チェア理事アルセニオ・ラック・J・リザソ氏（フィリピン）は、将来のI T I 活動における強力な国際的協力関係を築いた。

本大会に開する詳細な情報については、www.artscedu2010.kr を参照のこと。『ソウル議題・芸術教育の目標』および本大会におけるI T I 配布資料ご希望の方は、iti5@iti-worldwide.org までご連絡ください。

付記

本大会中、I T I 代表者たちは重要なI T I 内部会議を開催した。本会議での合意事項は次の通り。

- ・I T I 内部で、教育・研修活動において共通の戦略的プランを創出すること
- ・第3回大会に、より強力な代表チームを送るよう努めること
- ・芸術教育世界同盟における活動をより活発にすること（I T I はすでにメンバーアンソシエーション）
- ・第3回大会では、舞台芸術の存在をより強力に押し出すこと（実演、

ワークショップなど）

- ・第3回大会では、芸術面、アーティスト（実践家）、参加アーティストの増加を強く打ち出し、発言力を強めること

（I T I 本部NEWS 98号より）

帝劇開場100周年! 感謝を込めてお贈り致します!!

心伝える瞬間がここにある。
壮絶な人生を生きた人々の、真実の愛の物語。

帝劇開場100周年記念公演
M・Les Misérables

作・アラン・ブーリル＆クロード・ミッシェル・シェーンベルク
原作・ヴィクトル・ユーゴー
オリジナル・プロダクション製作・キャメロン・マッキントッシュ
演出・ジョン・ケード・トーバー／ナン

4月12日(火)初日▶6月12日(日)千穫座
プレビュー公演：4月8日(金)▶10日(日)
(ナガセ料金) S席13,000円 A席12,000円 B席10,000円 (税込) (プレビュー料金) S席11,000円 A席10,000円 B席8,000円 (税込)
チケット前売開始 [4月分] 4月29日(土) [5月分] 3月5日(土) [6月分] 3月12日(土)

詳しくは東宝公式ホームページをご覧ください。 東宝

帰国報告

文化庁新進芸術家海外研修生

チエコ 谷口直子

二〇〇九年九月末から350日

間、ヨーロッパのチエコ共和国で、人形劇を中心としたオルタナティブシアターについて研修をするチャンスを頂いた。

チエコ共和国は人形劇の古い歴史を有しており、その新たな方向性として発展して来た『オブジェクトシアター』と呼ばれるジャンルは他のヨーロッパ諸国では見られない、獨特な進化を遂げている。

人形と人間の壁だけでなく、音楽、ダンス、パントマイム、クラウニング、サークัส、サイトスペシイフィック・・・様々なジャンルを超えて、劇場の壁すら超えて作品を作り続けるエネルギーは、創造のつぼだった。

●人形劇師、沢則行氏
チエコに拠点を置きながら、日本はもちろん広くヨーロッパを中心

公演を行つてゐる沢則行氏。私のこの1年間の研修の中心は、沢氏のアシスタントとして公演活動に同行することだつた。

チエコの人形劇は、古くは巡回人形劇の歴史などもあり、上演形態を非常にコンパクトに、シンプルに工夫してある場合が多い。

沢氏の作品も、舞台上には基本的には澤氏と人形だけ。非常にコンパクトでシンプルである。そして在欧洲近く、上演活動を続いている

間、ヨーロッパのチエコ共和国で、人形劇を中心としたオルタナティブ

シアターについて研修をするチャンスを頂いた。

チエコの人形劇は、古くは巡回人形劇の歴史などもあり、上演形態を非常にコンパクトに、シンプルに

工夫してある場合が多い。

チエコの作品も、舞台上には基本的には澤氏と人形だけ。非常にコンパクトでシンプルである。そして在欧洲近く、上演活動を続いている

間、ヨーロッパのチエコ共和国で、人形劇を中心としたオルタナティブシアターについて研修をするチャンスを頂いた。

チエコの人形劇は、古くは巡回人形劇の歴史などもあり、上演形態を非常にコンパクトに、シンプルに

工夫してある場合が多い。

チエコの作品も、舞台上には基本的には澤氏と人形だけ。非常にコンパクトでシンプルである。そして在欧洲近く、上演活動を続いている



ハンガリー ワークショップにて

経験からか、仕込みからバラしまで沢氏一人でも出来るように考え方で、無駄は徹底して省かれていた。

日本人独特的美意識に支えられた作劇とこれまでの長い経験に裏打ちされた現場での逞しさはヨーロッパの肥沃な演劇界を生き抜いて行く為には欠かせないもので、ひとつひとつの指導は非常に説得力があるものだつた。

スリッケースに人形や必要な道具を詰めて、世界を舞台に上演を続ける沢氏。軽やかな部分ばかりが伝えられるその活動の、大変な部分も、素晴らしい部分も見せてくれたことは非常に重要な経験だつた。

1年もの間、面倒を見てくださつたことに、ここで改めて感謝の意を表したい。本当に、ありがとうございました。

●人との出会い、そしてボーダレスな表現の世界
人形劇に関わるワークショップに参加することも大きな目的のひとつであつた。沢氏が指導した3つのワークショップ以外にも、もう3

つ、合計6つのワークショップに参加することができた。

中でも印象的だつたのは6月から7月にかけて行われたプラハ芸術アカデミー(DAMU)のサマーワークショップである。アメリカ、オランダ、フィンランド等、8カ国から集まつた参加者十数名の内、役者は私を含め、2人だけだつた。他は現代アートのデザイナーやシアター工デュケーションの研究者、手品師等、様々なプロフェッショナルが集まつて來ていた。また、用意されていたコースも、人形劇だけにとどまらず、ダンス、パントマイム、ソロパフォーマンス制作、サイトスペシイフィックと多様で、これまで触れたことのない分野が多く、新鮮だつた。何より、参加者同士が交わす意見の視点も独特で、非常に興味深いワークショップだつた。

また7月に行われたマリオネット操演ワークショップでは国立マリオネット劇場に勤める現役の人形遣いのプロフェッショナルから、糸操りの基礎を教えてもらうことができた。DAMUのワークショップでも

現役の人形遣いから様々な種類の人形の操演について学ぶチャンスがあった。人形の種類がどんなに違つても、根底に流れる『魅せ方』は同じであり、非常に貴重な体験であつた。



DAMU Summer workshop

ら、私自身の作品を上演してみないかとの誘いがあつたからである。

そこから半年間、構想を練り、宮沢賢治の『よだかの星』をモチーフに『Yodaka』という作品を制作した。

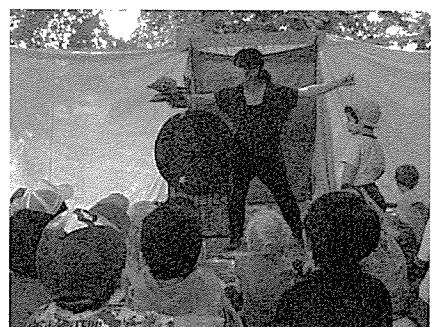
日本人美術家の林由未さんに美術を依頼した。彼女から、国立劇場等で演出も手がけるZoja Mikotovaさんを紹介していただき、一緒に作品を制作するチャンスを得た。

また演出家や美術家の尽力のおかげで、様々なフェスティバルに参加することことができ、最終的にはチェコ国内だけでなく、ブラチスラバ（スロバキア）でのUNIMA主催のフェスティバルにまで参加することができた。

規模は小さいながらも自ら企画、構成し、作品を作り、劇場に持つて行き、お客様から直接評価を受けと/or>言つても過言ではない。私自身のソロパフォーマンスをチェコ人演出家と日本人美術家と制作し、各地のフェスティバル等をまわり、合計8ステージ上演することができた。

きつかけは私の受け入れ期間でもあるオストラヴァ市公立人形劇場に來て、せっかくチエコまで来たのだか

ドイツ 庭山由佳



『Yodaka』
Street Performance Festival –Teatrotoc にて

●これから
来年4月から故郷の福岡県北九州市で小さなスタジオを始める予定である。そこは私の作品制作の拠点であると同時に、ワークショップやイベント等を開催し、地域の人々が芸術に触れる為のスペースにしておきたいと考えている。芸術面だけでなく重苦しい閉塞感が広がる我が国で、枠組みやシステムから変えないとどうにもならない問題もあるもちろん多々ある。しかし私のような一介のアーティストがまずは自分で足元から変えていくことも大きな変革。むしろ一番大切なことなのではないかと思う。

新年明けましておめでとうございます。二〇一一年を迎える気持ちも新たに、3月に開催される秀作短編研究シリーズフランスの事務局を、二〇〇六年に開催された秀作短編研究シリーズフランス編一からお手伝いしています。そんな中、縁があつて、二〇〇七年9月から二〇〇九年8月までをベルリンにて、文化庁新進芸術家海外研修生として過ごしてきましたので、この場を借りて報告をいたします。

文化庁の研修期間は2年間でしたが、私は研修前の1ヶ月をバイロイト大学で、研修後の5ヶ月を研修劇場に残つて過ごしたので、合わせると2年半滞在したことになります。研修劇場はペルリン・ドイツ座という劇場で、これまで2度、来日公演がありました。二〇〇六年「エミーリア・ガロティ」於さいたま芸術劇場、二〇一〇年「野鴨」於あうるす

ます。二〇一一年を迎え、気持ちも新たに、3月に開催される秀作短編研究シリーズイギリス・アイルランド編一の制作に取り組んで参る所存です。私は国際演劇協会ユネスコの事務局を、二〇〇六年に開催され

た秀作短編研究シリーズフランス編一からお手伝いしています。そんな

ぱつと、演出家は共に座付演出家タールハイマー氏。また、主任座付演出家クリーゲンブルク氏は新国立劇場にてオペラを演出、座付作家エニヒ氏は新国立劇場にて自作が上演され、来日しています。私はこのドイツ座で、肩書きは演出助手として、実際にはドラマトウルク部・道具製作・投影映像製作・稽古転換・明かり作りのスタッフとして、研修しました。



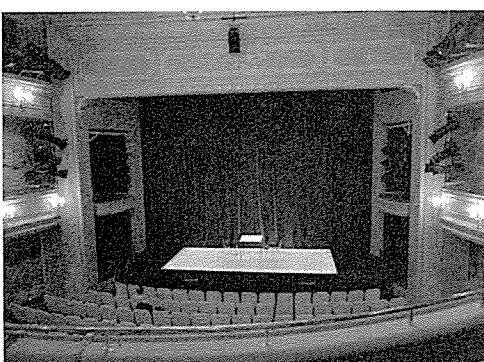
ドイツ座 外観

ドイツ語圏の演劇をかじると、必ず出会う職能があります。「ドラマトウルク」です。日本でドラマトウルクと言うと、芸術的感性を持つ言語能力者、と捉えられることがあります

が、実際には、日本のいわゆる「制作」に、芸術の業務をプラスし、営業の業務をマイナスしたような職能です。ここではドラマトウルクの業務を軸に、ドイツ座での作品制作過程を追っていきます。ドイツ語圏では、演劇・オペラ・バレエ、どれをとってもレパートリーシステムが採用されています。ドイツ座は年間25本の

レパートリーと20本の新制作とを抱えているので、45本もの作品が通年繰り返されることになります。よって稽古の進行は、プロデュースシステムと大きく異なります。ドイツ語圏のドラマトウルクが特別な響きを有するのは、稽古進行と度重なる再演を、芸術的感性を持ち併せて捌く能力が要求されるからです。現場に入つて実感したのは、演劇を創るために必要な作業は世界共通、たゞ分業の線引きが異なるだけだということです。

稽古は初日の約7週間前から始まります。前半4週間は稽古場で、後半は、数時間の休憩を置くこともあります。稽古中の転換は、美術プランナー、衣裳プランナーが務めます。日本でいう演出部にあたる職がないのです。本番では小道具係がしてくれます。稽古場棟へ移動して稽古を続けることもあります。しかし稽古を続けても、夕方になると主演俳優達が言います。「別の本番があるから劇場へ戻るよ」。俳優不在の夜の時間帯は、演出家が中心となつて音楽・



客席から舞台を見る



袖から舞台を見る

れます。彼らは日中出勤しません。そして昼休みを忘れて稽古をするも、十四時には大道具係が戻ってきて言います。「夜の舞台美術に仕込み替えする時間なので、稽古は終了してください」。これ幸いと樂屋食事で昼食の時間になる訳です。昼食後は、稽古場棟へ移動して稽古を続けることもあります。しかし稽古を続けたとしても、夕方になると主演俳優達が言います。「別の本番があるから劇場へ戻るよ」。俳優不在の夜の時間帯は、演出家が中心となつて音楽・

道具・映像を作り込みます。そしてその日の本番が終演すると、樂屋食堂にて主演俳優達と合流、ダメ出しが二十六時近くまで続くのです。

さてドラマトウルクですが、その重要な仕事は概ね、こういつた稽古サイクルに入る前に完了していま



す。主任ドラマトウルクは芸術監督の秘書を兼ねていますので、そもそも作品と演出家を選定していく作業から準備は始まります。これらが

ある程度固まるごとに、Künstlerisches Betriebsbüro という部と連携し年間プログラムを練っていきます。これも日本にはない部署で、訳すと「芸術的運営部」でしょうか。ここは座付俳優・座付スタッフの動向と、大劇場・小劇場・稽古場・再演・旅公演のスケジュールを管理する、パズルのピースを合わせていくような難しい所務を司ります。スケジュールが組めたら、ドラマトウルクは演出家と共に資料を集め、美術プランを組み、上演台本を書き上げ、宣伝材料を作成します。ドイツ座ではドラマトウルク部のすぐ向かいがデザイン部になつていて、座付写真家もあり、密に連携を取っています。

ところでドラマトウルクは、稽古に割つて入つて中断されることさえあります。それだけの責任と信頼を集めているのは、作品の中身にこのようにして、演出家と一人三脚で関与するからです。また、稽古が進

行するとドラマトウルクは、敢えて稽古場から離れ、客観的に観るポジションを築きます。そして時折稽古場に現れ、美術・衣裳・道具・照明・音響・映像・音楽・プロンプター、あらゆるスタッフの愚痴を聞いて回り、必要であれば追加予算をひねり出します。中立の立場でいるがゆえにできる仕事です。この頃には既にパンフレットに載せる論文や情報がまとめられており、最終リハーサルで撮影された写真を盛り込み、入校。

初日のプレス対応は広報部が進めで担当者がいます。當業部には関係者チケットを扱う部門がありますが、更にその中に、初日チケットのみを扱う担当者がいます。初日に混乱しがちなプレス・関係者のチケットは、この一部ダブルキャストになる際や、旅公演準備の際、演出家が立ち会えない場合があります。そうなるとドラマトウルクは、座付演出助手と座付舞台監督と共に稽古を進めます。その他にも、演劇教育部の開くワーク

ショップの企画会議に参加したり、資料を提供したり。地方劇場の初日に積極的に足を運ぶのもドラマトウルクです。彼らは芸術監督の直下であります。このようにして各部署が連携を取り合い、作品を世に送り出しています。ベルリンは壁崩壊から20年経ちます。けれど心の壁や、給与・納税の壁は、いまだ存在しています。ドイツ座にはハイナー・ミュラーの初演スタッフが現役でいますから、壁崩壊前後のこととはこと細かに語つてもらいました。ベルリンという街が何を抱え、ベルリンの演劇人が何に葛藤し、どんなアイデンティティを持ち、どんなものをどうやって創ってきたのか、それを学べたこの2年半の研修は、これまでの私の人生の中で得た最大の糧です。この機会を与えてくれた全ての方に感謝し、日本のお演劇界にこの経験を還元していく決意を込めて、新年のご挨拶とさせて頂きます。本年もよろしくお願い申し上げます。

事務局通信——

会員消息 (順不同 敬称略)

入会 大橋 也寸

川口 啓史

関容子

関根勝

退会

内山 鶴 小野 正和
春日野八千代 白井 信彦

花柳 瀧藏 古川 恒一

松坂 直子 毛利 三彌

森下 美佳 吉田 雅之

八板 賢治郎

文化功労者 市川 猿之助
紀伊国屋演劇賞 大塚 道子
平成二十二年度舞踊芸術賞

尾上 菊乃里

受賞

井上 ひさし 小檜山 昭康
犬丸 直(顧問) 尾上 菊乃里
高橋 英子 野沢 那智
中村 富十郎

ご冥福をお祈りいたします。

住所変更

オオハショースケ

事務局はいつも何故忙しい?

事務局の日常業務には、会員情報の管理、会員向け情報提供、総会理事会や各種委員会の開催(案内通知の発出から議事録の作成まで)、各種の収入や支出に関する出納や経理業務等があります。

これらは、民間企業、公益法人を問わずどこの団体でも普通に行われていることですが、そのほかに、社団法人(現在は「特例民法法人」)ならではの特徴的な業務もあります。それは、監督官庁等からの調査依頼に回答するというものです。

当協会に対しては、毎年、文化庁から「特例民法法人現状調査」の要請があり、内閣府からは、同じく法人改革がらみで「概況調査」の依頼があります。回答すべき項目は、団体に関する基礎情報、組織構成に関する情報、経理財務情報などです。が、それぞれの設問に対して適切な答えを誤りなく回答できるよう、担当者にはそれなりの知識と労力が要求されます。

そのほかに、昨今では、各種の助成金が適切に執行されたかを確認するために、助成元のスタッフの方が確定検査に来所されることがあります。

書類づくりのスペシャリストである役所や助成団体の方々の想定水準を満たすために、民間団体の側には当面情報処理コストの増大を回避する知恵と努力が求められています。

ITI日本センターは、早稲田大学演劇博物館演劇映像学連携研究拠点(リーダー=竹本幹夫演劇博物館館長)の主催する連続講演会「中東・現代演劇」(二〇一〇年十二月、早稲田大学)の開催に協力し、

ペレスチナから俳優・劇作家のタヘル・ナジーブ氏、並びにベルギー・ブリュッセルから中東演劇の専門家であるエトーリ氏を招聘しました。こ

れは、当センター主催の「紛争地域から生まれた演劇」

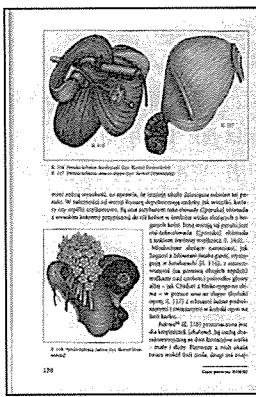
(ドラマリーディング)とシンポジウム)と連動する企画で、

現代の中東の演劇状況を知る貴重な機会となりました。今後も早稲田大学との間でこのような連企画を継続的に実施していくことを考えています。

エステラ・ゼロムスカ著「日本の伝統演劇」全2巻

前号のITIニュースでもお知らせ

しましたが、ポーランドの日本演劇研究者・エステラ・ゼロムスカさんのラ イフワークのひとつ、「日本の伝統演劇」が事務局に届いています。右はそ の第2巻『歌舞伎と文楽』、『歌舞伎 第4章 アクター』の箇所。髪の記述



ご冥福をお祈りいたします。

す。事務局で閲覧出来ますのでご希望の方はどうぞ一報下さい。

■ 2011.6月 モトヴァン／クロアチア

インターナショナル・ドラマ・コロニー

ITI オーストリアセンター＆クロアチアセンター（クロアチア・ドラマ・アート・アカデミー）の国際共同企画。基本的アイデアは現代の海外およびクロアチアの戯曲を経済状況の許す範囲で分析実験上演することによりクロアチアと他の国々との共同制作の地盤を築こうというもの。コロニーの主要な活動は、ドラマのテキストの準備とその分析で、外国からの作品はドラマ・リーディングの形で紹介する。（舞台美術、コスチュームなし。俳優は上演の際台本を手に持つが、ベースとなる戯曲の役柄との関係性は保つ。）contact: Z.Turcinovic

tel: +385-14920-669 hc-iti@zg.t-com.hr

www.hciti.hr

■ 2011.7.24～31 ソウル／韓国

ソウル国際ダンスコンペティション

ソウル国際ダンスコンペティションは2004年以来毎年開催されている。ダンスの発展振興を目的とし、若いダンサーに将来を託し育成することを主眼とする。参加登録が必要。contact: ソウル国際ダンスコンペティション事務局 tel:+82-2-588-7571 sicf@sicf.or.kr
www.sicf.or.kr

■ 2011.9.18～30 北京／中国

GATS Festival in Beijing

演劇学校をつなぐ世界組織「Global Alliance of Theatre Schools」がシャイクスピア演劇祭を企画、北京中央戲劇学院が招聘する。ITI ユネスコチャア（ユネスコ移動演劇講座）の催しの一環。

contact:unescochair.iti@gmail.com

■ 2011.9.19～25 アモイ／中国

第33回 ITIワールド コングレス

世界大会ホスト国は中国、ITI 中国センターが責任組織。インフォメーション詳細は HP 1月中旬に。

www.iti-congress.org 注:現在（1月18日）未アップ。



訃報 —

エレン・スチュワートさん Ellen Stewart

アメリカ、実験劇場 La MaMa 創設者。

ITI 演劇大使としても演劇普及発展に貢献した。

1月13日 心臓疾患で入院療養中だったニューヨーク市内の病院で逝去。91歳。

シカゴ出身。

デザイナーを経て、1961年、ニューヨークで前衛演劇活動の搖籃ともいえる劇場ラ・ママを創設、実験演劇活動の中心的な存在として多くのアーチストを置け入れた。オフオフ ブロードウェイのパイオニアであり、ニューヨークでは「オフ ブロードウェイの母」と呼ばれた。

劇場は世界に門戸を開き、日本からは寺山修司の「天井桟敷」、東由多加の「東京キッドプラザーズ」などが来訪公演し、また安部公房、大野一雄らが舞台を踏んだ。

1994年、勲四等瑞宝章を受章。

葬儀は1月17日マンハッタン5番街のセント・パトリック協会で執り行われた。

リータ』で開幕する。

contact: Dr.Manfred Beilharz tel: +49-611-132-264

intendanz@staatstheater-wiesbaden.de

www.maifestspiele.de

www.staatstheater-wiesbaden.de

■ 2011.5.2～6 リオデジャネイロ／ブラジル

アウグスト・ボアール没後2年記念国際セミナー

「芸術、政治と教育」

アウグスト・ボアールが展開した各種の活動を基盤にボアールの「抑圧された演劇」の理論を支持する研究者・演劇評論家、ボアールの演劇実践理論を実行し作品発表活動を続ける世界のアーチストたちが集い、芸術および政治と教育をテーマにセミナーを開催。主催: UNIRIO(リオデジャネイロ大学演劇科) contact: Zrca Ligiéro tel: +55-212-542-3126 +55-218-826-9533 zacaligiero@gmail.com

■ 2011.5.16～21 ブラチスラヴァ／スロヴァキア

ニュー ドrama

スロヴァキア国内の現代戯曲の優れた上演作品を一堂に鑑賞する機会で、今回はスロヴェニア現代作品も特集する。会場は DPOH ブラチスラヴァ市立劇場。

contact: Dominika Zatkova tel: +421-2-220487-601 www.theatre.sk/sk/02/0304-2011-festivalND.htm

■ 2011.5.11～15 イエヴレ／スウェーデン

スウェーデン・ビエンナーレ

ビエンナーレ演劇祭は年々活発な状況を呈し参加者はトータル 1000 人を超えるほどになった。外国からの参加者にとってスウェーデン演劇のはば全容に接することが出来、公演の他にセミナー・展覧会・レクチャー・マスタークラス・各種ミーティングなど多くの出会いが組まれる。スウェーデン国内の参加作品は日刊紙の演劇評論家たちの審査を経て全国から選ばれている。

ITI スウェーデンセンター主催

contact: Ann Mar Engel info@teaterunionen.se
www.teaterbiennalen.se

■ 2011.5.20～29 コペンハーゲン、マルモ／デンマーク、スウェーデン

アシテジ世界大会＆アシテジ国際児童青少年演劇祭

アシテジは「国際児童青少年演劇協会」、Association Internationale du Théâtre pour l'Enfance et la Jeunesse (略して ASSITEJ)。ITI と同様にユネスコのNGO の一つである。アシテジ・デンマークセンターとアシテジ・スウェーデンセンターの共同主催により児童青少年演劇作品の国際演劇祭と世界大会とが併催され、期間中パフォーマンスの他にフォーラム、セミナー、レクチャー、リーディング、ブレックファーストディスカッション等、盛り沢山なプログラム内容である。

contact: Niclas Malmcrona nm@assitej2011.info

Peter Manscher pm@assitej2011.info

■ 2011.6.12～24 プカレスト／ルーマニア

日本の演劇、日本の文化

ユネスコ移動演劇講座 (UNESCO Chair-ITI) の「アジア・ヨーロッパ プログラム」の一環として開催される、実技を伴う講座。能、狂言、歌舞伎、舞蹈などの集中講座である。ユネスコ・チェアと桐朋学園芸術短期大学との共催。参加希望者は希望分野の事前受講登録が必要。contact: unescochair.iti@gmail.com

■ 2011.6.16～26 ブラハ／チェコ共和国

布拉ハ・カドリエンナーレ 2011

パフォーマンス・デザイン&スペース国際展

4 年に 1 度布拉ハで ITI チェコセンターが主催する大規模な舞台美術・劇場建築の総合的な国際展。現在世界 5 大陸から 76 カ国以上が参加登録をしている。展覧会、パフォーマンス、ワークショップ、レクチャー、ディスカッションとプレゼンテーション etc. が舞台芸術の各ジャンルにわたり展開する。舞台装置デザイン、舞台衣裳デザイン、照明および音響デザイン、劇場建築デザインなどの展示がある。劇場建築はさらにダンス、オペラ、ドラマ、サイト・スペシフィック、マルチメディア・パフォーマンス、パフォーマンス・アートなどに細分される。展示には競技部門があり参加各国のキュレーターが組織し、国および地域参加部門、建築部門、学生部門に分かれて審査される。特別部門として「Pq+」「PQ for Children」が設けられた。(PQ は Prague Quadrennial の略) contact: ITI チェコセンター mirka.potuckova@divadlo.cz pq@pq.cz www.pqcz.net tel: +420-224-809-102

(→ 14 頁へ)

- 2011.2.6～15 テヘラン／イラン
第29回ファジル Fajr 国際演劇祭／イラン
イラン革命後の組織された最大の演劇祭で、毎年国内からおよそ100グループが参加、海外からは20グループほどが招聘される。国際ワークショップを併催する。contact: Mohammad Atebbai dac@neda.net tel:+98-21-6670-8861 fax:+98-21-6672-5316
- 2011.2.15～3.27 フリータウン／シエラレオネ
中学校ドラマコンペティション
ITI シエラレオネセンターはブリティッシュカウンシルとの共催で、3月27日のワールド・シアター・デイに向けてドラマコンペを呼びかけている。1平和と確たる社会の安定への変化を目指す文化、2次世代の才能ある若者への創造の場の提供、3子どもたちに芸術・文化による国づくりをパフォーミング・アーツのジャンルで貢献することを提示。以上の3つを目的とするコンペである。contact: itislec@yahoo.co.uk
salamicarew@yahoo.com
- 2011.3月 クラニ／スロヴェニア
第41回スロヴェニアドラマフェスティバル週間
ITI スロヴェニアセンターは ITI 国際劇作家フォーラムの協力のもとにワールドシアターデイ記念演劇祭を開催、スロヴェニア劇作家による上演作品と国内外の演劇イベントを準備中。次世代劇作家に発表のチャンスを提供する。contact: Tatjana Azman, Marinka Postrac (festival org), tel: +386-41-941-112, tatjana.azman@opera.si
- 2011.3.20～27 アロヴェル／キプロス
ワールドシアターデイ記念イベント
WTD 当日はキプロス国内すべての劇場の入場料は無料となり、路上野外劇、レクチャーが組されます。contact: Neophytos Neophyto, ITI キプロスセンター tel: +357-2267-4920 ccoiti@cytanet.com.cy www.cyprus-theatre-iti.org
- 2011.3.27 パリ ユネスコ本部
ワールドシアターデイ記念式典
2011年のメッセージ発信者はジェシカ・カアウワ(ウガンダ)
- 2011.3.25～4.2 トリノ／イタリー
「わたしのハムレット」週間
- 演出家ウラ・アラシヤルヴィ指導によるワークショップにより参加者全員で戯曲「わたしのハムレット」を創り上げる。 contact: Ulla Alasjarvi +390-1119703521 info@salaespace.it www.salaespace.it
- 2011.4.13～16 ウプサラ／スウェーデン
TUPP 演劇祭
スウェーデン・ウプサラ市私立劇場と ITI スウェーデンセンターの共催によるライブアートのカンパニーに開放される演劇祭。contact: info@uppsalastadsteater.se
- 2011.4.13～11 サンクトペテルブルグ／ロシア
プレミオ・エウローパ 2011 Premio Europa 2011
第14回ヨーロッパ演劇賞・第12回ヨーロッパ「新しい演劇リアリティー」賞に関する催しがロシア文化省と St.Petersburg 市の援助のもとに開催される。contact: info@premio-europa.org
- 2011.4.26～5.1 サンパウロ／ブラジル
第4回ラテンアメリカ テアトロ・デ・グルボ展
ITI ブラジルセンターは展覧会会期中ラテンアメリカの ITI 各国センター代表者会議を開催、テーマは「パフォーミングアーツのジャンルにおける ITI の役割」。contact: Luis Amolim amolimluis@uol.com.br www.mostralatinoamericana.com.br
- 2011.4.29 パリ ユネスコ本部
インターナショナル ダンス デイ記念式典
今年のメッセージ発信者はアンネ・テレサ(ベルギー)、リュブリアナ(スロヴェニア)、ザグレブ(クロアチア)、ニコシア(キプロス)、ブエノスアイレス(アルゼンチン)等でも記念パフォーマンスが予定されている。
- 2011.4.30～5.31 ヴィスピーデン／ドイツ
国際演劇祭=五月祭 MAI FESTSPIELE (オペラ)
全世界から著名なバレエ団、オーケストラ、歌手が集うドイツで最も重要な総合芸術祭。会場はヘッセン国立劇場。五月祭芸術監督はマンフレート・バイルハルツ(ヴィスピーデン州立劇場)。「皇帝の演劇」として1896年にヴィルヘルム II 世が創設した、バイロイト演劇祭に次いでドイツで最も古い歴史を持つフェスティバル。ヘッセン国立劇場制作ロディオン・シchedリン作曲オペラ『ロ (→ 15 頁へ)